

兵庫医科大学病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 11月 策定
(平成30年 5月 追記)

【兵庫医科大学病院の基本情報】

医療機関名：兵庫医科大学病院

開設主体：学校法人 兵庫医科大学

所在地：兵庫県西宮市武庫川町1番1号

許可病床数：963床（平成29年4月1日現在）

（病床の種別）

一般病床：919床

精神病床：44床

（病床機能別）

高度急性期：828床

急性期：91床

稼働病床数：951床（平成29年4月1日現在）

（病床の種別）

一般病床：907床

精神病床：44床

（病床機能別）

高度急性期：816床

急性期：91床

標榜診療科目：

- | | | |
|--------------|-----------|----------------|
| ・内科 | ・脳神経外科 | ・頭頸部外科 |
| ・循環器内科 | ・小児科 | ・産婦人科 |
| ・呼吸器内科 | ・整形外科 | ・眼科 |
| ・消化器内科 | ・呼吸器外科 | ・放射線科 |
| ・血液内科 | ・心臓血管外科 | ・放射線治療科 |
| ・内分泌・代謝内科 | ・皮膚科 | ・麻酔科 |
| ・糖尿病内科 | ・泌尿器科 | ・歯科 |
| ・神経内科 | ・外科 | ・歯科口腔外科 |
| ・肝臓・胆のう・膵臓内科 | ・消化管外科 | ・リハビリテーション科 |
| ・腎臓・人工透析内科 | ・乳腺・内分泌外科 | ・救急科 |
| ・リウマチ科 | ・小児外科 | ・ペインクリニック・疼痛緩和 |

外科

- | | | |
|---------|----------|--------|
| ・アレルギー科 | ・形成外科 | ・臨床検査科 |
| ・腫瘍内科 | ・美容外科 | ・病理診断科 |
| ・精神科 | ・耳鼻いんこう科 | |

（41標榜診療科）

職員数：

平成29年10月1日現在／人

職種	常勤	非常勤（常勤換算）
医師	623	30.1
歯科医師	24	5.7

職種	実人数	常勤換算
薬剤師	78	77.2
助産師	38	37.7
看護師	1042	1033.0
准看護師	1	0.8

職種	人数（常勤換算）
看護業務補助者	133.0
理学療法士	35.0
作業療法士	13.0
視能訓練士	14.0
言語聴覚士	8.1
歯科衛生士	6.0
歯科技工士	2.0
診療放射線技師	53.5
臨床検査技師	114.2
臨床工学技士	21.0
管理栄養士	10.0
保育士	1.0
その他の技術員	18.7
医療社会事業従事者	11.0
事務職員	191.3
その他の職員	33.8

平成29年度医療施設静態調査病院票より

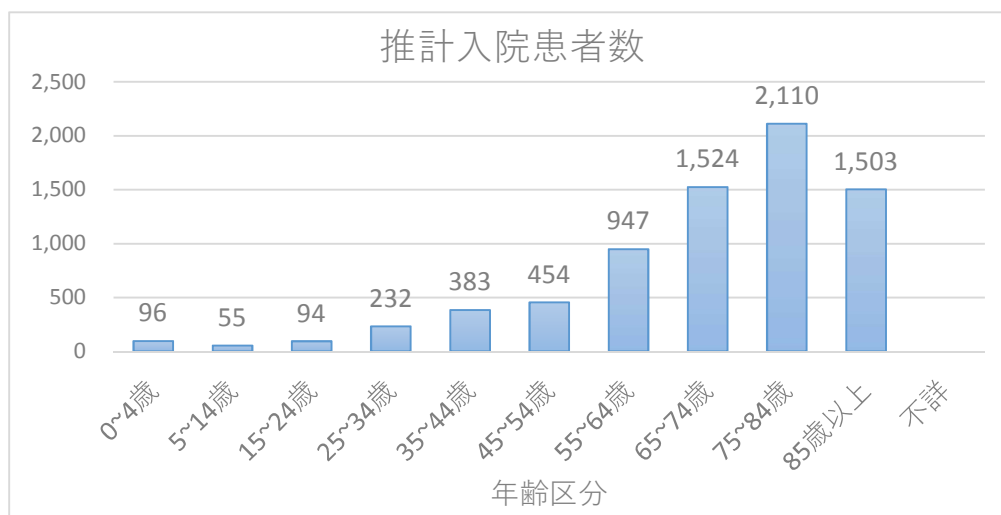
【1. 現状と課題】

①構想区域の現状

◎阪神南圏域における受療動向

(1) 年齢階級別推計入院患者数

平成25年10月兵庫県保健医療計画 兵庫県「平成23年患者調査」より



(2) 疾病分類別推計入院患者数

平成25年10月兵庫県保健医療計画 兵庫県「平成23年患者調査」より

疾患名	患者数	うち圏域内の入院患者数(人)	圏域内への入院割合(%)
精神及び行動の障害	1,234	467	37.8
循環器系疾患	1,582	1,328	83.9
新生物	921	799	86.8
損傷、中毒、外因の障害	580	499	84.4
消化器系疾患	387	337	86.0
神経系疾患	551	382	69.3
呼吸器系疾患	463	379	83.5
筋骨格系及び結合組織の疾患	469	402	81.9
内分泌、栄養及び代謝疾患	245	219	89.4
その他	934	773	82.8
合計	7,366	5,585	75.8

(3) 機能ごとの患者の移動状況

高度急性期の約80%が圏域内で完結、約9%が県外へ移動している。

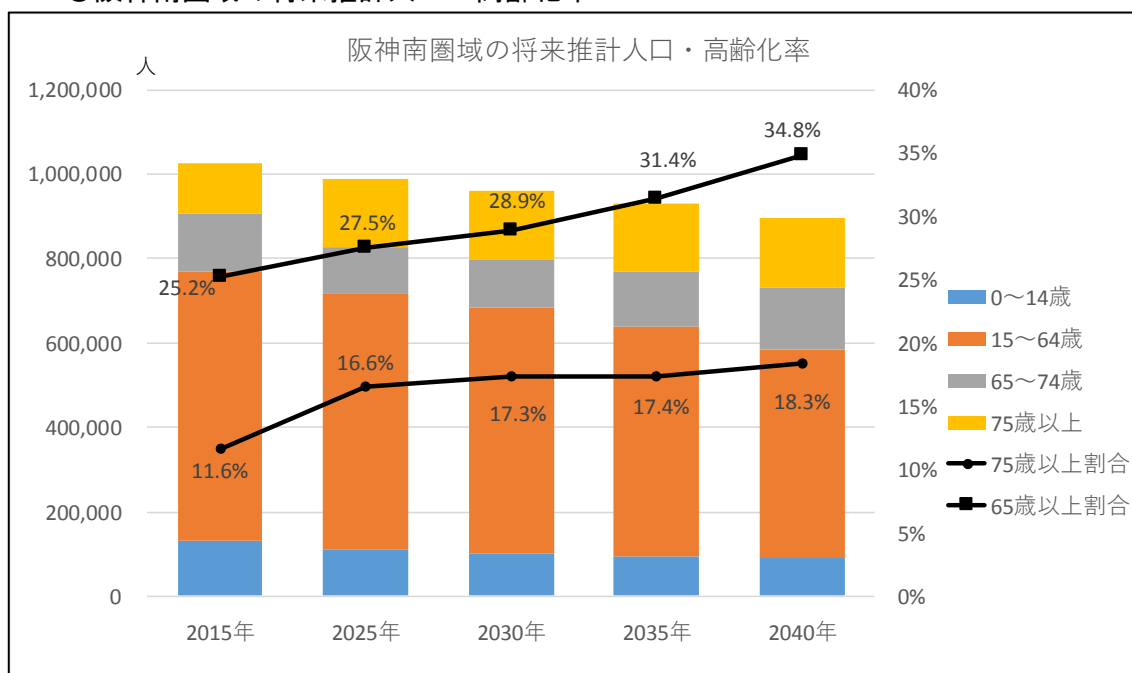
兵庫県地域医療構想より（2013年）

	自圏域内	県内他圏域	他県
高度急性期	79.7%	11.4%	8.9%
急性期	83.0%	10.5%	6.5%
回復期	81.5%	10.4%	8.1%
慢性期	74.2%	17.3%	8.5%

◎阪神南圏域の人口及び高齢化の推移

団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年頃まで高齢者人口が一貫して増加。うち、後期高齢者人口は2030年に概ねピークに達するが、増加率が高く、2015年の1.4～1.5倍に膨らんだ後、横ばいとなり、団塊ジュニア世代が後期高齢者となる2045～2050年にかけて、再び増加に転じる見込み。これと連動して、医療需要は大きく膨らみ、2030年頃にピークに達した後も暫く高水準を維持する見込みである。

○阪神南圏域の将来推計人口・高齢化率

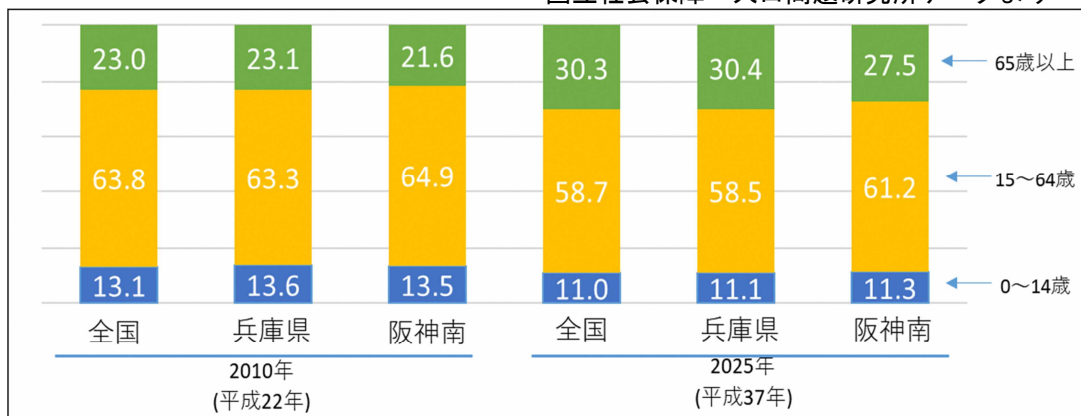


また、阪神南圏域においては、都市部でもあり全国や兵庫県全体よりも高齢化は緩やかとはいえ2025年には総人口99万人のうち65歳以上人口が27万人（27.5%）、

75歳以上人口が16万人（16.6%）に上ると推計される。

○人口構成比の今後の見込み

国立社会保障・人口問題研究所データより



◎阪神南圏域の医療需要の推移

阪神南圏域の医療需要（高度急性期～慢性期）は2013年から2025年かけて7.6%の増加が予測され、高齢化率の上昇に伴い概ね2035年に医療需要のピークを迎えるとされている。2025年には病床全体数の不足、特に回復期の不足が見込まれる。

*第19回兵庫県医療審議会保健医療計画部会資料1-3、必要病床数推計ツールを用いたH37（2025）推計より

法令及び国提供推計ツールを用いた将来の病床数

(1) 阪神南圏域における病床数推計。都道府県間、圏域間の患者流動を反映した場合の推計

病床機能	2014(H26)年度		2025(H37)年度		差引 正数:過剰 △:不足	2030年	2035年	2040年
	病床機能報告 (稼働病床)	医療需要 (人/日)	必要病床数 (床)	必要病床数 (床)		必要病床数 (床)	必要病床数 (床)	必要病床数 (床)
高度急性期	1,221	959	1,279	1,296	△ 58	1,296	1,294	1,288
急性期	4,727	2,705	3,468	3,603	1,259	3,603	3,605	3,595
回復期	605	2,573	2,859	2,998	△ 2,254	2,998	3,006	3,000
慢性期	2,327	1,531	1,664	1,794	663	1,794	1,788	1,762
病床数小計	8,880	7,769	9,270	9,691	△ 390	9,691	9,693	9,645

(2) 阪神南圏域における病床数推計。すべての患者が住所地圏域で受療すると仮定した場合の推計

病床機能	2014(H26)年度		2025(H37)年度		差引 正数:過剰 △:不足	2030年	2035年	2040年
	病床機能報告 (稼働病床)	医療需要 (人/日)	必要病床数 (床)	必要病床数 (床)		必要病床数 (床)	必要病床数 (床)	必要病床数 (床)
高度急性期	1,221	918	1,224	1,244	△ 3	1,244	1,243	1,240
急性期	4,727	2,641	3,386	3,519	1,341	3,519	3,523	3,512
回復期	605	2,604	2,893	3,035	△ 2,288	3,035	3,042	3,036
慢性期	2,327	1,644	1,787	1,915	540	1,915	1,911	1,885
病床数小計	8,880	7,807	9,290	9,713	△ 410	9,713	9,719	9,674

出典：兵庫県地域医療構想

◎阪神南圏域の医療提供体制

【地域医療連携】

西宮市は六甲山系をはさみ南北に長く、北部は山間部が多く医療機関数は少なく、隣接する他圏域への利用が多い。沿岸部は医療機関数が多く、交通の便の良い地域であり、隣接する他圏域から当圏域への利用もある。

【救急医療】

3次救急を担う医療施設は阪神南圏域に、兵庫医科大学病院、県立西宮病院、県立尼崎総合医療センターの3カ所である。

【周産期医療】

阪神南圏域における総合周産期母子医療センターは、兵庫医科大学病院、県立尼崎総合医療センターの2カ所である。地域周産期母子医療センターは県立西宮病院の1カ所となる。

【災害医療】

阪神南圏域における災害拠点病院は、兵庫医科大学病院、県立西宮病院、県立尼崎総合医療センターが指定されている。

②構想区域の課題

・平成28年10月の時点で概ね必要なすべての診療科が揃っているが、2025年における医療需要の推計では、循環器系の疾患が25.1%、呼吸器系の疾患が34.7%の増加となっている。また、呼吸器疾患入院数の阪神北・神戸圏域への流出が多くなることが推測されている*。

*第19回兵庫県医療審議会保健医療計画部会資料1-7、
疾患別・圏域別必要病床数および資料1-8、
疾患別・圏域別流出状況より

【救急医療】

3次救急を担う医療施設は阪神南圏域に3カ所（兵庫医科大学病院、県立西宮病院、県立尼崎総合医療センター）ある一方、阪神北圏域には三次救急医療機関がなく、阪神南北を1つの救急医療圏域としての3病院での役割や機能分担の協議が必要となる。それにより、阪神地域救急医療連携会議（2016年3月7日）が開催され、現状と課題についての認識を共有した。

【周産期医療】

阪神南北の両圏域の兵庫医科大学病院、県立尼崎総合医療センターの総合周産期母子医療センターと県立西宮病院の地域周産期母子医療センターの複数の医療機関間の連携が円滑に行われなければならない。

【5疾病について】

5疾病のうち、2025年に患者の絶対数が大きく増加するのは、がんと循環器系疾患（特に脳梗塞）、精神疾患（特に認知症）であり、急増する上記3疾患患者の診断と治療が大きな問題となる。

・がん対策

2025年に阪神南ではがん患者の増加が予想される。圏域内の専門的ながん診療の機能を有する病院のそれぞれの役割の明確化や連携により、専門施設での初期治療等の以降の医療については、がん地域医療パスの利用が重要となる。がん地域連携パスについては、阪神南北圏域で、胃・乳・大腸・肺がんでは比較的多くの運用実績が見られるが、緩和ケア地域連携パス・看取りパス等は未整備である。

・脳血管疾患対策

脳卒中の入院患者は増加・高齢化しており、医療・看護レベルの向上、療法士のリスク管理能力の向上も必要となる。阪神南圏域では脳卒中の急性期医療を担う病院は充実しているが、急性増悪による転院が必要なケースが増加しており、スムーズな回

復期、維持期病院との病病連携が重要である。

・精神疾患（特に認知症）対策

2025年には日本全体で認知症患者数は700万人前後に達すると言われており、これに従えば単純に人口比で見ても阪神南での患者数は5万数千人になると予測される。

③ 自施設の現状

◎理念と基本方針

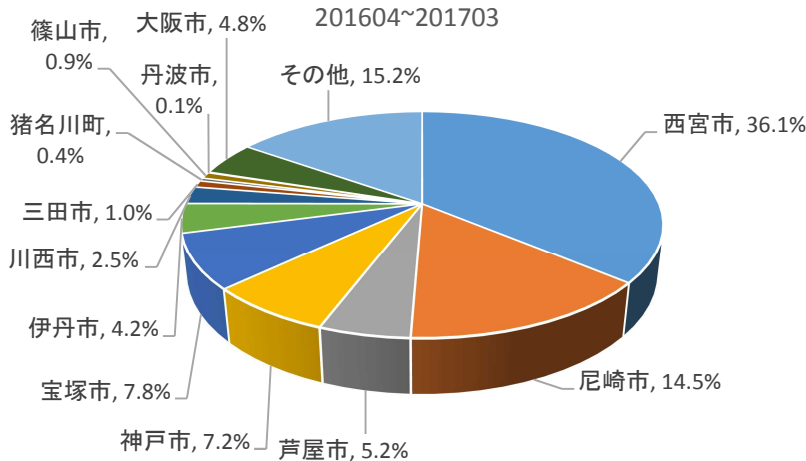
理 念	兵庫医科大学病院は、安全で質の高い医療を行い、地域社会へ貢献するとともに、よき医療人を育成します。
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権を尊重し、患者の立場に立った医療の実践 ・ 人間性豊かな、優れた医療人の育成 ・ 高度で、先進的な医療や医学研究の推進 ・ 健康増進活動による保健・福祉の推進 ・ 地域の医療機関との円滑な連携

◎診療実績（平成29年9月30日現在）

届出入院基本料 特定機能病院一般病棟 7対1入院基本料
 特定機能病院精神病棟 13対1入院基本料

項 目	平成29年度上半期累計
1日平均入院患者数	848人
病床稼働率（一般+精神）	89.1%
平均在院日数（一般+精神）	11.8日
1日平均外来患者数	2,129人
1日平均新患者数	192人
紹介患者数	2,132人/月
逆紹介患者数	1,410人/月
紹介率（診療報酬上）	87.8%
逆紹介率	55.6%
救急搬送患者数	270人/月
救命救急センター受入患者数	130人/月
外来化学療法件数	884件/月
手術件数（手術センター・アイセンター実施分）	941件/月
分娩件数	34件/月

地域別入院患者数(実患者数)



地域名	入院患者数
西宮市	6,196
尼崎市	2,498
芦屋市	890
神戸市	1,234
宝塚市	1,344
伊丹市	724
川西市	426
三田市	168
猪名川町	77
篠山市	155
丹波市	19
大阪市	825
その他	2,615
総計	17,171

図A

◎病床機能 高度急性期病棟 26病棟 828床 (許可病床数)
 急性期病棟 2病棟 91床 (")

◎拠点病院指定状況

区分	指定等の年月日
特定機能病院の承認	平成 6年 3月
災害拠点病院に指定	平成 8年10月
阪神南圏域地域リハビリテーション支援センターに指定	平成16年 4月
兵庫県エイズ治療中核拠点病院に指定	平成19年 7月
地域がん診療連携拠点病院に指定	平成20年 2月
肝疾患診療連携拠点病院に指定	平成20年 4月
兵庫県認知症疾患医療センターに指定	平成21年 4月
総合周産期母子医療センターに指定	平成27年 4月

◎その他

- ・ 第3次救急医療機関
- ・ 日本医療機能評価機構認定病院 (3rdG:Ver. 1.1)
- ・ 特定入院料の施設基準の指定状況
 - ✓救命救急入院料1
 - ✓救命救急入院料4
 - ✓特定集中治療室管理料1
 - ✓ハイケアユニット入院医療管理料2
 - ✓脳卒中ケアユニット入院医療管理料
 - ✓総合周産期特定集中治療管理料
 - ✓新生児治療回復室入院医療管理料
 - ✓小児入院医療管理料

④ 自施設の課題

◎逆紹介率の低迷

患者紹介率は年々向上して、現在87.8%に及んでいる(平成29年度上半期実績)。これは圏域(西宮・尼崎両市を中心に広く阪神南北両圏域[前頁 図A])の实地医家や前方病院からの紹介入院患者数が順調に増加していることに基づいている。しかしなが

らその一方で、逆紹介率は55.6%と低迷している。これは、阪神南北圏域の回復期病床数が現状でも不足しているため、後方病院への紹介が円滑に行えないためである。2025年にはより患者動線の良い地域完結型医療が展開できるよう、今から圏域内後方病院との病病連携強化を、行政・医師会などの協力も得ながらすすめるべきではない。

◎分娩件数の低迷

本院は総合周産期母子医療センターであり、産科セミオープン体制も平成27年5月より構築して圏域の産科クリニックと提携しながら母子の安全担保を実現しているが、現在の月間分娩件数は34件と低迷している（平成29年度上半期実績）。産科・新生児科の担当医数や助産師数も確保できており、緊急帝王切予備オペ1室やNICUなどハード面も十分なレベルを維持できており、圏域（南北が統合すればなおさら）内の正常・異常分娩と新生児管理にさらに貢献できるように、広報活動を展開していくべきであるとする。

【2. 今後の方針】

兵庫医科大学病院は、5疾病5事業（へき地医療除く）につきまして従前より阪神南医療圏域において貢献している。5疾病のうち「脳卒中」、「急性心筋梗塞」、「糖尿病」、また5事業のうち「小児医療」については第7次医療計画の中においても引き続きその役割を果たしていく。特に「がん」、「精神疾患」、「救急医療」、「災害時における医療」、「周産期医療」は今後の方針として下述する。

① 地域において今後担うべき役割

◎救命救急センターの体制強化

本院は災害拠点病院であるとともに、救命救急・熱傷センターも設置しているが、南圏域に位置しているため、圏域内で3次救急を扱う2施設と常々救急搬送症例の競合が起こりがちである。医療資源の有効活用のため、プレホスピタルケアや救急隊員（救命救急士）の教育も含めて、搬送症例のさらに的確なトリアージや搬送先への振り分けが行われるべきである。もし阪神南北圏域の統合が行われるならば、なおさら北圏域からの搬送例の増加が予想されるが、その際は搬送時間の最短化が必須となる。したがって、行政との協働が重要となり、本院に既設の救急（災害/熱傷/多発外傷etc.）・循環器・脳外科ホットラインなどを活用するとともに、断らない救急医療を実現できる体制強化を予定している。

② 今後持つべき病床機能

◎精神疾患合併妊産婦のケア

最近増加しつつある精神疾患を合併した妊産婦を管理できる施設は、阪神南北圏域は言うに及ばず兵庫県下にも乏しい。本院が総合周産期母子医療センターであるとともに、精神科44床を有している利点を活かして、圏域内のみならず、圏域外からのより多くの精神疾患を合併した妊娠・出産例への対応を積極的に行い、社会的要請に応えようと考えている。

◎認知症増加をふまえて

認知症患者の急増を反映して、すでに本院にも認知症を合併した高齢者や5疾病症例の入院が増加しつつある。2025年には700万人にと想定される認知症患者に対応するため、精神科医・臨床心理士（公認心理師）・認知症看護認定看護師などのマンパワーを育成・結集して、精神科や認知症患者占有病棟ではなく、所属各科病棟内で対応で

きる体制づくりを急ぎたい。看護力を補うため、異常行動や夜間徘徊などを検知するモニターシステムやAiを応用したメンタルケア対応可能なロボットなどの開発（機器メーカーとリハビリテーション部などと）や導入を図る予定である。

◎がん診療の受け入れ体制強化

本院は地域がん診療連携拠点病院に指定されており、全てのがんに対する手術（ロボットも）・化学療法（入外）・放射線治療のいずれをも、ゲノム医療時代に対応したレベルでの適応判断を入れての提供がハード・ソフト両面において可能となっている。しかしながら、圏域内の回復期病床数不足のため、急性期医療を提供したあとの緩和ケアを含めた長期治療をどこに引き継ぐべきか難渋する例が多い。その対応策として、2025年には稼働予定である新病棟内に緩和病棟を設けるか？圏域内に本院と密接に連携できる回復期病床を有する後方病院を設けるか？これらを、一応プランとして温めている段階である。

◎ER体制の構築と若手医師の養成

新専門医制度発足の一つの目的は、医師（とりわけ若手医師）の地域偏在防止と患者を総合的に評価診断できる総合診療医の養成があげられている。現在本学ではささやま医療センターにおいて総合診療医養成プログラムの実施を計画しているが、高度急性期・急性期医療をその中心に据えている本院でも、2次救急患者を扱うER体制を構築して、若手医師の総合診療医の素地を形成させることに役立てようと考えている。ウォークイン症例や短期間の入院観察が予定される症例への対応のために、病床の一部を完全中央管理として、その病床において救命救急センターや各科の指導医がレジデントなど若手医師を指導育成するシステムを構築する予定である。

③ その他見直すべき点

南圏域には従前より、開心術可能な心臓血管外科を有する施設が、兵庫医科大学病院、関西労災病院、尼崎総合医療センター、西宮渡辺心臓血管センターと4箇所もある。過去には笹生病院、大隈セントラル病院（旧称）でも同医療が可能であったが、採算性と医療資源の観点から現在はその診療を行っていない。したがって近い将来、南北両圏域が統合されるとしても、この南圏域に心臓血管外科の施設をさらに設けることは、医療資源的に見て課題が多いと思われる。

【3. 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告) (許可病床数)		将来 (2025年度)
高度急性期	828	→	828
急性期	91		91
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	919		919

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等

<p>2017年度</p>	<p>圏域（南？南北？） 内の回復期病床を有 する病院との 連携強化</p> <p>自治体・行政との連 携と救命救急センタ ーの体制強化による 救命救急センター受 け入れ数増加</p> <p>認知症症例への対応 策強化</p> <p>がん症例受け入れ体 制の強化</p>	<p>逆紹介率：60%</p> <p>救命救急センター受け入 れ数：月間 150件</p> <p>認知症センターの業務内 容の見直しと強化</p> <p>がんゲノム医療対応のた めの 『遺伝子医療部』のリニ ューアルと体制強化</p>	<p>集中的な検討を促進 2年間程度で</p>
<p>2018年度</p>	<p>圏域（南？南北？） 内の回復期病床を有 する病院との 連携強化</p> <p>自治体・行政との連 携と救命救急センタ ーの体制強化による 救命救急センター受 け入れ数増加</p> <p>認知症症例への対応 策強化</p> <p>2次救急・ER体制 の構築</p>	<p>逆紹介率：70%</p> <p>救命救急センター受け入 れ数：月間 170件</p> <p>認知症とその予備軍症例 のスクリーニング検査の 確立</p> <p>救命救急センターと院内 各科のマンパワー整備</p>	<p>第7期 介護保険 事業計画</p> <p>第7次 医療計 画</p>
<p>2019～ 2020年度</p>	<p>圏域（南？南北？） 内の回復期病床を有 する病院との 連携強化</p> <p>自治体・行政との連 携と救命救急センタ ーの体制強化による 救命救急センター受 け入れ数増加</p> <p>認知症症例への対応 策強化</p>	<p>逆紹介率：80%</p> <p>救命救急センター受け入 れ数：月間 190件</p> <p>認知症対応医療者の育成 ・増強</p> <p>ERの稼働と病床完全中 央管理</p>	

	2次救急・ER体制の構築		
2021～2023年度	同時代の医療・介護体制における本院の立ち位置の見直しと改革案の軌道修正	2025年稼働予定の新病棟の設計から施工開始	第8期 介護保険 事業計画

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合	外科、消化管外科を消化器外科へ	→	<ul style="list-style-type: none"> ・医局講座体制の見直しと連動した、新たな診療体制の構築 ・新専門医制度の定着から予想される若手医師マンパワーの適正配置

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率： 88% (精神科病棟含む)
- ・ 紹介率： 90%
- ・ 逆紹介率 80%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率： 35.5%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.11%（医師は含まない）

【4. その他】

特になし。

以上